

新刊紹介

著者	里見 信生, 清水 建美, 鈴木 三男
著者別表示	Satomi Nobuo, Shimizu Tatemi, Suzuki Mitsuo
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	39
号	1
ページ	5p.
発行年	1991-06-15
URL	http://doi.org/10.24517/00055916



な盆地の環境変化の影響を受けるようになってきた。土地開発は短期間で直接に池の環境を変える。たとえば池の周囲で土木工事が行われた場合、池そのものを埋め立ててしまい、全ての水草が消滅した例(49)や、池は残ったが水草相が大きく変わり、コウホネ属も姿を消した(40; 下田, 1989)例があった。一方、周辺で大規模な土木工事が行われたわけではないのにコウホネ属が消滅したり(38)、個体数が減少した池(3)があった。これらの池では調査期間中に水草相が変化し、現在は池一面にヒシが繁茂しているため、汚水の流入などにより人為的な富栄養化が進んだものと考えられる(下田, 1983)。

西条盆地のコウホネ属植物は、今のところ西条盆地に特有と考えられる種類を含み、植物学的に大変興味深く貴重な地域集団であるが、残念ながら姿を消す集団が今後も増えていくであろう。著者は機会があるごとに、ため池と水生生物の価値や保全を訴えるよう努めている(下田, 1988 a, 1990)。しかし際立った経済的価値を持たない池沼や水生生物の保全は、西条盆地で進行中の急激な土地開発や地価高騰を前にしては非常に困難である。

引用文献

- BEAL, E.O. 1956. Taxonomic revision of the genus *Nuphar* SM. of North America and Europe. Journ. Elisha Mitchell Sci. Soc. 72: 317-346.
- DEPOE, C.E. and BEAL, E.O. 1969. Origin and maintenance of clinal variation in *Nuphar* (Nymphaeaceae). Brittonia 21: 15-28.
- HESLOP-HARRISON, Y. 1955. *Nuphar* SM. J. Ecol. 43: 342-364.
- 井波一雄. 1982. 広島県植物図選 II. 100 pls. 博新館, 広島.
- 石沢 進(編). 1988. 新潟県植物分布図集第9集. 533 pp. 植物同好じねんじょ会, 小千谷.
- 角野康郎. 1984. 兵庫県東播磨地方における溜池の水生植物. 植物地理・分類研究 32: 127-135.
- 北村四郎・村田 源. 1961. 原色日本植物図鑑. 草本編 II. 離弁花類. 390 pp. 保育社, 大阪.
- MIKI, S. 1934. On fresh water plants new to Japan. Bot. Mag. Tokyo 48: 326-337.
- 三木 茂. 1937. 山城水草誌. 京都府史蹟名称天然記念物調査報告 18: 1-127.
- 長瀬秀雄. 1987. 岐阜県高山市に新分布の植物. 植物地理・分類研究 35: 56.
- 大井次三郎(北川政夫改訂). 1983. 新日本植物誌頭花篇. 1716 pp. 至文堂, 東京.
- SCHUSTER, J. 1906. Ueber den Polymorphismus bei *Nuphar*. Allg. Bot. Zeitschr. 12: 79-83.
- 下田路子. 1983. 広島大学統合移転地およびその周辺部に分布するため池の水草. 植物地理・分類研究 31: 46-57.
- SHIMODA, M. 1985. Phytosociological studies on the vegetation of irrigation ponds in the Saijo basin, Hiroshima Prefecture, Japan. J. Sci. Hiroshima Univ., Ser. B, Div. 2, 19: 237-297.
- 下田路子. 1988 a. 西条盆地の溜池と水草—新キャンパスとその周辺部を中心として—. 広大環境 13: 11-15.
- . 1988 b. 台湾の旅. 水草研会報 33・34: 63-67.
- . 1989. 広島県西条盆地のコウホネ類(要旨). 水草研会報 37: 28-29.
- . 1990. あるささやかな願い—せめて西条キャンパスには自然を残してほしい—. 広大フォーラム 22(3): 26-29.
- ・鈴木兵二. 1981. 西条盆地(広島県)における休耕田の植生. Hikobia Suppl. 1: 321-339.
- 田村道夫. 1974. キンボウゲ目の水草. 遺伝 28(8): 25-30.
- . 1982. スイレン科 Nymphaeaceae. 「日本の野生植物. 草本 II. 離弁花類」(佐竹義輔ほか編), 93-95. 平凡社, 東京.

(Received July 26, 1990)

○ 奥山春季 植物採集記録抄 B5判, 142頁. 平成3年4月1日, 奥山春季植物採集記録抄刊行会(千葉県松戸市千葉大学園芸学部・環境緑地学科 藤井英二郎)発行. 非売品。

著者からの挨拶文に「前半を採集記録, 後半を採集旅行記の読物と思い出のアルバムに大別し編集しました。アルバムの項では知友の方々の懐かしい姿に、楽しかった採集会の思い出が蘇って来るでしょう」と述べられている。

私としても本書を拝見していると、御伴したあちらこちらの思い出が目に浮んで来て、大変なつかしい。

著者は自分史の一端と言われるが、それはそうとしても、当時その場所に見られた植物が、今ではそこから失われてしまったものが余りにも多い。本書ではこういった具体的な例が記録されている。著者は今こそ稀少種の保存について、真剣に考えるべきであることを暗示しているのではあるまいか。

(里見信生)

○ 多和田眞淳氏を悼む(初島彦彦) Sumihiko HATUSIMA: Obituary of the Late Mr. Shinjun TAWADA.
沖繩植物研究の在琉三大功労者のうち、1982年に園原咲也氏を、1985年に天野鉄夫氏を失い、今度は最後の一人多和田眞淳氏を失ったことはまことに残念である。多和田氏は1907年那覇市に生れ、1926年沖繩県立師範学校を卒業後、現在まで約50年間琉球列島の植物を採集し、その採品は京大の小泉、大井、北村、田川、外山の諸先生、台北大学の正宗氏に送られ、その結果多くの新種、新記録の植物が発表された。筆者も氏が西表島におられたとき、網取のマングローブに案内していただき、そこで同氏発見のヒメハブカズラを採集し、それを新種 *Raphidophora liukuensis* HATUSIMA として発表したことがある。氏は1926年～1948年、沖繩、西表の小学校、中学校に勤務し、1948年琉球政府に勤務、その間林業試験場長(1953～1958年)、琉球政府文化財保護委員会主事となる。氏は植物のほか、考古学にも造詣が深く、琉球のその方面に関する多くの論文を発表している。氏を記念してつけられた学名に、*Eupatorium tawadae* KITAM., *Rubus tawadanus* KOIDZ., *Lasianthus tawadae* OHWI, *Lepidagathis tawadana* OHWI, *Strobilanthes tawadanus* OHWI, *Freycinetia tawadae* Y. KIMURA がある。著書に「沖繩菓草のききめ、1972年」がある。氏は昨年12月21日83才で亡くなられた。住所は那覇市崎山町1-83。

○ 島袋敬一 琉球列島維管束植物集覧 B5判, 794頁。平成2年11月20日, ひるぎ社(〒903 沖繩県那覇市首里石嶺町1-117) 発行。9,000円。

著者は故原 寛博士の「日本種子植物集覧」に深く感銘し、北は吐喝喇列島より南は八重山諸島に到る琉球列島の植物において、既刊の著作に記された学名を考訂し、この地域の植物相研究に役立てたいということから、この出版を企画された。私はこの労に対し敬意を表する。しかし、著者は序文に“かなりの部分が孫引きに終わっていることを告白しなければならない”と書いて居られるように、出典を明らかにするならば、引用文献中に本誌が落下するようなことはあるはずがない。

○ 伊藤浩司・日野間 彰・中井秀樹編 環境調査・アセスメントのための北海道高等植物目録II B5判, 288頁。平成2年6月30日, たくぎん総合研究所(〒060 札幌市中央区大通西3丁目6番地 道新ビル) 発行。10,000円。

本書はIV(244頁。昭和62年3月20日発行)に続いて出版されたもので、環境問題が注目される今日、全国各地で各種の環境調査が行なわれているが、それらの報告書に使用されている植物名については必ずしも一致することがなく、共通の統一的な標準植物名表が必要である。この観点から、本書は同一植物とされている植物に対してつけられた学名や和名の異名を採録したもので、特に書名に“環境調査・アセスメントのために”とつけられている。私はIを見ていないが、既に刊行されているようで、残るIIIが完成するならば、著者等が考えて居られる北海道の高等植物についてのチェックリスト作成上の基礎資料ならびに分布資料として価値高いものであることは言うまでもない。

○ 浅野一男 浪合村の植物 B5判, 288頁。平成3年3月3日, 浪合村教育委員会(長野県下伊那郡浪合村中下町) 発行。非売品。

浪合村の標高は820～1907mで、標高差約1000mの間に、クリーコナラ林、モミーツガ林、アカマツ林、ミズナラ林、ブナークマイザサ林、ウラジロモミ林、コメツガーシラベ林が垂直方向に、ほぼ層状に重なっていて、約950種の高等植物が自生している。本書では「浪合村の四季」と「図鑑部」の二部から構成されていて、約300種について伊知地国夫氏撮影のカラー写真を加えて解説している。浪合村では身近な植物に親しみ、植物を通して真の自然の豊かさや浪合村のすばらしさを学び、郷土愛を育てて行くことを切望し本書を刊行したと言う。

○ 岩井昭夫 大井川の植物 B6判, 190頁。平成3年3月25日, 百水社(〒192 東京都八王子市明神町4-9-1-1104) 発行。1,600円(本体1,553円)。

著者は大井川上流地域の調査に、昭和26,7年頃より40年間、月1回と単純に計算しても、すでに480回足を運んだと言う。また、その間に撮影したフィルムは5万コマに及ぶと言う。

本書はそのうちの88種、100枚近くが精選された由である。したがって、著者は引続いて第2集を刊行したいというお考えがあることをもらして居られる。
(里見信生)

内海側に本種がみられることは、日本海要素の瀬戸内側への著しい分布例として注目される。

日本海要素植物が紀伊半島の中央部にまで分布する例として、タニウツギやイワナシなどがよく知られている。しかし、ミヤマトウバナは今のところ紀伊半島には見いだされていない。また、至近距離で当地から60~70 kmしか離れていない四国からも報告されていない。今日、四国に本種がみられないことから、陸続きになり分布を広げることが充分可能であった氷期においても、本種の四国地域への分布拡大はなかったことが示唆される。最終氷期極寒期(約1.8万年前)には瀬戸内地域は乾燥が著しく、森林は貧弱であったとされており(亀井, 1981), また後氷期の開始期(約1万年前)にも瀬戸内海周辺地域はブナが生育できないほど乾燥していたといわれている(安田, 1987)。このように瀬戸内地方に長期間続いた乾燥気候のために、本種の四国への分布拡大は制限されたものと推定される。

なお、調査にあたり標本の閲覧に便宜を図っていただいた、関係機関の方々に感謝致します。下記の標本の略号 KYO, SHO は各々、京都大学及び頌栄短期大学の標本庫を示している。

証拠標本(兵庫県とその周辺地域及び樺太)

【兵庫県】<養父郡> 関宮町: 氷ノ山 (GM 21086, KYO; TK 566, SHO), 布滝 (TK 11478, SHO) <美方郡> 村岡町: 瀬川渓谷 (TK 281, SHO) 温泉町: 霧ヶ滝 (GM 20678, KYO) 日高町: 阿瀬渓谷 (MY 984, SHO) <宍粟郡> 波賀町: 赤西渓谷 (NK 7898, SHO) 一宮町: 高野峠 (TK 16167, SHO) <神戸市> 北区シブレ山 (TK 16224, SHO)

【鳥取県】<八頭郡>: 扇ノ山 (AT 23251, KYO), 氷ノ山 (AT 23128, KYO), 芦津渓谷 (AT 12770, KYO), 若桜町 (AT 25773, KYO) <西伯郡>: 大山 (GM 11491, KYO; AT 24644, KYO)

【岡山県】<英田郡>: 西粟倉村若杉 (AT 25690,)

【京都府】<北桑田郡>: 芦生 (S. OKAMOTO, KYO; G. NAKAI 5618, KYO)

【樺太】(標本) 相川 (S. OTAGIRI, KYO), Mt. Sussuja (S. SUGAHFRA, KYO)

(文献) 美保(分布北限地), 真岡, 本斗, 十串, 鈴谷岳, 海馬島, 吐鯉保(菅原, 1975)

引用文献

福岡誠行. 1966. 日本海要素の分布様式について. 北陸の植物 15: 63-80.

亀井節夫. 1981. 最終氷期における日本列島の動植物相. 第四紀研究 20: 191-205.

北村二郎・村田源. 1982. 原色日本植物図鑑草本編(I), 保育社.

小林禮樹. 1991. 「西神戸の植物」への追加植物目録. 兵庫の植物 創刊号: 114-123.

奥山春季. 1982 a. 原色日本野外植物図譜1, 誠文堂新光社.

———. 1982 b. 原色日本野外植物図譜2, 誠文堂新光社.

佐竹義輔ほか. 1982. 日本の野生植物 III, 平凡社.

菅原繁蔵. 1975. 樺太植物誌IV, 図書刊行会, 1602-1603.

玉貫光一. 1977. 樺太博物誌, 図書刊行会.

安田喜憲. 1978. 大阪府河内平野における過去1万3千万年前の植生変遷と古地理. 第四紀研究 16: 211-229.

(〒673 明石市大蔵谷清水 583-36)



Fig. 1. Distribution map of *Clinopodium sachalinense* KOIDZ. (Added to OKUYAMA, 1982)

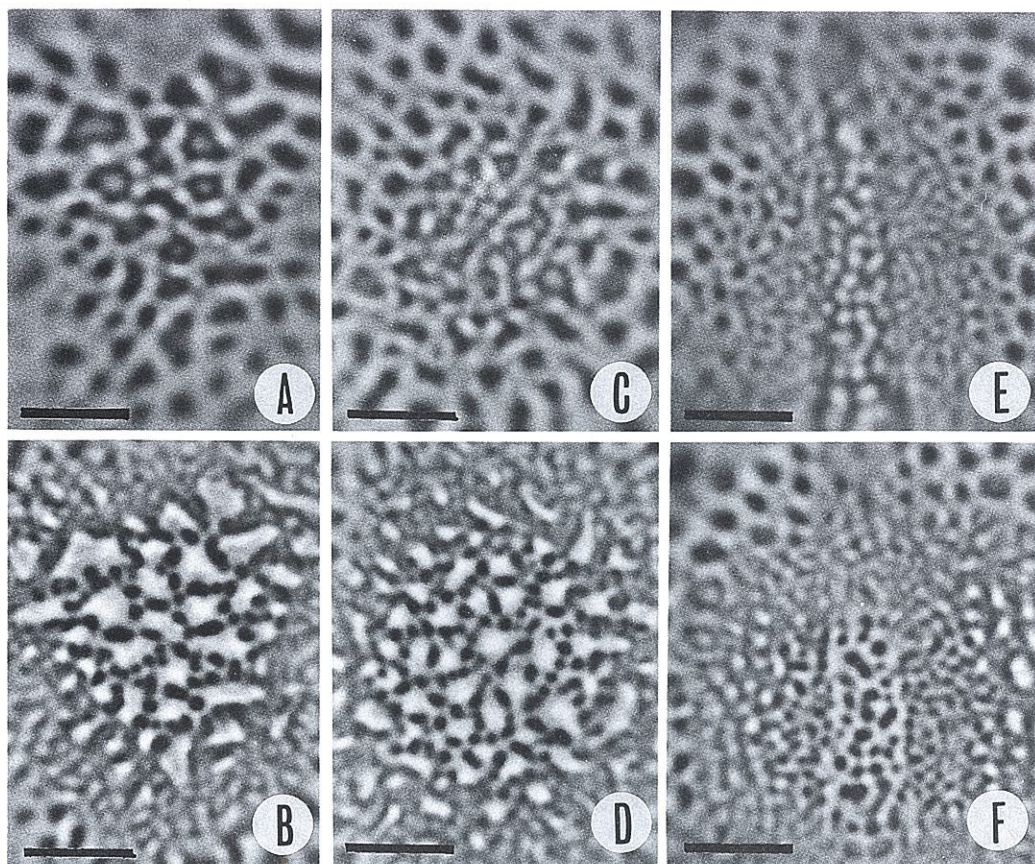


Fig. 3. Pollen grains of *Trochodendron aralioides* from specimens of NOSHIRO no.38 after swelling in glycerol-jelly for one year, under the light microscope. A,B: LO-pattern of the exine in the apocolpium. C,D: LO-pattern of the exine in the mesocolpium. E,F: LO-pattern of the exine around the furrow. Scale bars represent 5 μ m.

摘 要

グリセロール・ゼリーとシリコン・オイルに封入したヤマグルマの花粉を光学顕微鏡下で観察し、グリセロール・ゼリー中で膨張後の花粉彫紋・構造を含む花粉形態を記載した。花粉粒は半複構造の外膜と、溝周辺部で不連続あるいは顆粒状紋に変化しマーズをつくる網状紋をもつ3溝型である。形・大

きさともに変化に富む外層要素の顆粒が外層要素の溝薄膜をまばらに覆う。この顆粒は柱状体の配列・形に酷似する。網状紋の畝の下に明瞭な一条の柱状体が配列する。グリセロール・ゼリー中で膨張後に花粉の粒径とP/E比が大きくなるのは、他の溝型や溝孔型花粉粒と同様の傾向である。

(Received October 23, 1990)

○ 池上義信(監修)・石沢 進(編集)新潟県分布図集 第11集 植物同好じねんじょ会 (新潟県小千谷市山寺 関省吾方), 1990年12月25日発行。A4判96頁。限定300部, 頒価(〒別)3,000円。

本誌第38巻第1号で、第10集の紹介をした折、引き続き小型判の分布図出版の計画がある旨を述べた。続篇はもっと先になってぼつぼつ出版されるのではないかと思っていたが、このほど第10集までと判型もスタイルも全く同じ第11集が届けられた。頁数こそ少く、掲載種も25種と少くはなっているものの、その衰えを知らぬじねんじょ会の皆さんの熱意に心から敬服したい。本書には、分布図のほかに、新潟県植物分布資料(10)、石沢 進氏の離島の植物(10)の論説も収められている。

(清水建美)

山岡 正尾 〒939-05 富山市水橋町中村416 → 〒939-05 富山市水橋中村416

○ Dr. Hiroshi HARA Commemoration Committee (compiled) *Catalogue of the Works of Dr. Hiroshi HARA* (原寛博士記念事業会編 原寛博士業績総覧) 八坂書房。1991年4月15日発行。295頁。12,000円。

1986年9月に逝去された原寛博士の業績総覧がこのほど記念事業会により刊行された。本書は大英博物館のW.S. Stearn博士の序文、事業会のまえがき、博士の年譜、著作総目録、植物新学名一覧、植物新和名一覧、それに索引からなっている。原博士がはじめて書かれた論文は学習院高等科に入ったその年、1928年の事で、菌類の新産を報じるものであった。そして東京帝大の3年の頃からは年間10報を越える報文をものにし、その数は年を追う毎に増えて行くのがよくわかる。この目録では各年毎に通し番号がつけられているので、それを1928年から没後の1989年までを数えると実に793編、年平均10編を超える事になる。これはネパールのフロラなどでは索引の便宜のため科毎に数えている事などもあるが、その一方で高校生時代や終戦直後の全く研究を行うことができなかつた時期等も含んでおり、驚異的としか言いようがないアクティビティの高さである。この間に発表された新学名と新和名が、概算でそれぞれ2,400件と270件余りが収録されており、これまたすごい数である。しかし、数が多いからと言って、これらの植物名はなにも安易につけられたものではない。博士が国際命名規約をもっとも良く理解し、それを実践されてこられた事と、何よりも植物それ自体に対する深い洞察力と綿密な科学的研究により、結果としてこれらの新名が提唱された事を思えば、博士の偉大さが改めて認識される。また、巻末の索引は学名順の配列で、その植物が取り上げられている著作の番号と頁が示されている。これにより博士がその植物をどこで扱っているかすぐ分かり、大変便利である。本書は博士の偉業に触れると共に植物分類学の資料として大変役に立つものである事は言うまでもない。(鈴木三男)

○ 大和市動植物総合調査会(編) *大和市文化財調査報告書第40集 大和の植物—大和市動植物総合調査報告書2 大和市教育委員会*。1991年3月発行。B5判。164頁。非売品。

横浜市に隣接し、東京・横浜のベッドタウンとしてすっかり市街化された神奈川県の大和市が、このほど表記の報告書を出版した。大和市では1987年10月に動植物総合調査会を結成して以来、植物・昆虫・脊椎動物の3部会によって調査を続けている。植物部会は、武井尚氏を代表とする14名のメンバーが当り、4年間で植物標本12800点、スライド750枚を蓄積した。

この本は、16頁に及ぶカラー写真に続く、I. 大和市の環境、II. 大和市の植物概要、III. 植物目録、IV. 大和市の植物研究小史の4章が本文となっている。確認された維管束植物は、自生植物592種、帰化・逸出植物233種、亜種・変種・品種・雑種を含めた総数は1002となる。特筆すべきことは、ウラジロ・イヌシダに始まりクマガイソウ・オノノヤガラに終る171種の稀少植物である。種類数全体からみれば、ふつうの市町村とさして変りはないが、稀少植物が自生植物の30%にも及ぶこと、帰化・逸出植物が28%にもなることは本市のフロラ上の特徴といえるだろう。市街地であればこそ、このような綿密な調査によってフロラのチェックがなされることは自然環境の保全のために不可欠である。それにしても、神奈川植物誌(1988)の大著の完成後にも調査を続行される神奈川県の皆さんの熱意には敬服さざるを得ない。(清水建美)

○ 環境庁編 *日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—脊椎動物編* (財)日本野生生物研究センター。1991年4月発行。価格5800円(消費税込み5974円)、送料360円。

環境庁では、多数の野生生物の研究者の協力を得て、昭和61年度から「緊急に保護を要する動植物の種の選定調査」を実施し、レッドデータブックに掲載すべき絶滅のおそれのある種の選定・評価を行い、平成元年末までにひとまず種のリストを公表している。このリストに掲載種ごとの生育状況等を盛り込んで、市販用につくられたのがこの本である。レッドデータブックとは、国際自然保護連合(IUCN)の主導により、一定の規準の下に、国ごと地域ごとに絶滅のおそれのある野生生物の種をリストアップし、その生育状況等を解説した資料集のことである。この本の構成は、第1部—レッドデータブックの作成の目的、背景、選定・評価の方法、各カテゴリーの定義、第2部—各分類群ごとの概説(種の選定・評価における特性、留意事項)・掲載種のリストおよび種別の解説、となっている。ちなみに、掲載種は哺乳類では、絶滅種(記号EX)が、ニホンオオカミ・エゾオオカミ・ニホンアシカ・オキナワコウモリ・オガサワラアブラコウモリの5種、絶滅危惧種(E)が、ニホンカワウソ・ツシマヤマネコ・イリオモテヤマネコの3種、危急種(V)が、トウキョウトガリネズミほか9種、希少種(R)がアズミトガリネズミほか35種である。このほど行われた出版記念会で座長の加藤陸奥雄氏は、問題は、これからこの本をどう政策に生かすかが重要だと述べられたが、全くその通りである。この種の本は出しただけでは、マイナスの効果しかないのがふつうだからである。(清水建美)